

## 2017年上半期の経済成長の特徴と「新一線都市」

吉川 孝子

### <好調な西部地区の経済成長>

本年上半期の重慶市のGDPは昨年同時期に比べ10.5%増え、9,143.6億元に達しました。

産業別では、第一次産業が3.9%増、第二次産業が10.7%増、第三次産業は10.8%増で、安定かつ持続的に成長していると伝えられています。

重慶の上半期の経済状況にはいくつかの特徴がありました。

- ①行政による内部、外部の需要を同時に推進させる施策により経済の成長の安定が見られた。
- ②就業率が昨年の同期比べ、3.1%増加し、雇用環境が安定した。
- ③設備投資（更新）を行った製造業の企業の競争力が高まり、今後の地域経済の発展への堅実な基盤が築かれた。  
ことが挙げられます。

### <求職者の変化>

また、本年の新卒者の就職活動についても大きな特徴がみられ話題となっています。

多くの新卒者はこれまでいわゆる「一線都市」として人気の就職先地であった「上海、北京、広州」を離れ、「重慶、成都、杭州」などの「新一線都市」を就職先に選択しているようです。また、サービス産業、中でも外資系飲食業や教育関連産業といった分野の企業に高い関心を示しております。

このため、現在飛躍的な発展を遂げている「電子商取引業界」や、それに伴う「物流業界」などの一部成長産業分野では、急増する求人ニーズに対し応募者が少なく、深刻な人材不足となっており、問題となっております。

### <新一線都市へ>

このような沿海部の大都市から「新一線都市」への人材の移動は、「一線都市」への人口や産業の一極集中を改善し、中小都市の発展の促進につながることから、好ましい状況といえるでしょう。

「新一線都市」への関心が高まっている要因としては、

- ①環境汚染が少なく「一線都市」より住みやすい。
- ②生活コストが低い、仕事、生活に関わるストレスが少ない。
- ③独自に発展した優秀な企業が多数立地しており、ビジネスチャンスが多く、今後の地域の発展が望める
- ④地域の政治経済文化の中心となっている。

（重慶、成都是西部地区の政治経済文化の中心）

等が挙げられていますが、中国のお国事情から

⑤都市戸籍取得可能、住宅購入補助金支給などの生活に関する政策面での優遇もかなり大きな要因となっているようです。

このような状況から、重慶、成都をはじめ「新一線都市」の経済の発展は間違いのない状況となっています。

潜在力の高い広島県の「ものづくり技術」や「地域で活躍するイノベーション人材」を生かし、中国西部地区（重慶、成都）などへの事業展開によって「新一線都市」の活力導入を検討してみるのはいかがでしょうか。